

令和2年度 高等学校OPENプロジェクト実施報告書(3年次)

研究指定校	北海道余市紅志高等学校	教育局	後志教育局
-------	-------------	-----	-------

1 研究主題	
「農業の高度化・6次産業化への貢献 ～北のフルーツ王国ワイン特区と連携した町づくり～」	
2 研究実践内容	
月	実施内容
6月 ～ 7月	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次の総合的な探究の時間(課題研究)の中で、OPENプロジェクト2年目までの調査・研究(多言語班、観光班、交通班、農業班、福祉班の5班に分かれての調査、研究)の成果を「余市ワインツーリズム」という一つの形にまとめ、発表することとして調査、研究等を実施。 ○多言語班8名は地域における多言語化の状況を調査するために余市町役場と余市観光協会を訪問し、多言語化に向けての課題について聞き取りを行い、今後の展望等を検討。 ○観光班9名は余市町の魅力をアピールするためにツアーガイドに係るツアー企画やガイドについての企業や専門学校の協力のもと学習や研修を実施。 ○交通班6名はツーリズムの行程の作成、現地視察を行い、各見学先での滞留時間の案を作成し行程の調整を行うとともに、観光班に行程を提案。 ○農業班7名はワインブドウの接ぎ木苗生産に係る培養技術の習得を行うとともに、ツーリズムでは本校においてツアー参加者に苗木の培養に係る体験実習を企画。 ○福祉班6名はツアーに向けてブドウ畑等におけるバリアフリー化や障がい者対応の実験及び余市町におけるバリアフリーマップを作成。
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度第1回地域みらい連携会議(R02.7.30) ・各班の研究成果を結集した「余市ワインツーリズム」のプレツアーを余市町と連携して実施し、改善点等について検討。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度第2回地域みらい連携会議(R02.8.31) ・旅行会社(株)シーピーツアーズが主催する形態で「余市ワインツーリズム」を実施(R02.10.10) ・令和2年度第3回地域みらい連携会議(R02.10.20) ・全道ミーティング(R02.10.27)
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・余市紅志高等学校総合学科研究発表大会(R02.12.04)

(関係者等へのZoom配信を実施)

3 地域みらい連携会議の開催内容

第 1 回	令和2年7月30日(木) 16:00~16:45
出席者	小林委員、後藤委員、樋口委員、阿部委員、寺井委員、大下委員
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研究実践計画及びこれまでの取組について説明 ・観光資源に関する街頭調査の結果を報告
指導・助言を受けた内容	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の方が参加できるツアーであるため、パンフレットや行程表は、障がい者の方々が必要とする情報に落とし込むことを提示。 ・高校生とのツアーを通して、心の触れ合いを大切にしたい企画を取り入れる工夫が必要。(一般のツアー企画との違いと提示) ・今年度、これまでの調査・研究の成果報告を地域等に発信すること。

第 2 回	令和2年8月31日(月) 10:50~15:00
出席者	樋口委員、阿部委員、寺井委員、大下委員
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「余市ワインツーリズム」のプレツアーに係る講評及び助言(ワールドカフェ方式で委員の先生方と生徒で振り返り)
指導・助言を受けた内容	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生ならではの地域の隠れた情報を取り入れること。 ・パンフレット等に絵や図を盛り込み、視覚的に情報を発信すること。 ・実際のツアー参加者にリピーターとなってもらえるような企画を盛り込むこと(実体験や試食等を随所に配置)。

第 3 回	令和2年10月20日(火) 16:00~16:45
出席者	後藤委員、樋口委員、阿部委員、寺井委員、大下委員
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研究実践について説明 ・全道ミーティングにおける発表内容について
指導・助言を受けた内容	<ul style="list-style-type: none"> ・この調査・研究については次年度以降も何らかの形で継続して実施し、ノウハウの蓄積を今後の学習に生かすこと。 ・高校生の感性を生かした企画を行い、地域の機関に協力やサポートを得る形態の学習を大切にすること。

4 研究の成果と課題

(1) 目的の達成状況

- 小規模総合学科である本校では、地域の要請に応じた魅力ある学校づくりのために、社会で生きて働く力を身に付け、自らの力でたくましく未来を切り拓き、地域の創造に貢献できる人の育成を学校教育目標として生徒の教育に取り組んできたことを背景として、本実践研究においては、地域の特産であるワイン用ぶどう栽培の取組を通して、ぶどう栽培に係る課題や地域のニーズに対応した教育活動の充実を図ることを目的とした。また、基幹産業を支える人材や地域を守り支えていく人材を育成するため、生徒が地域の自治体、企業及び産業界などの関係機関との協働による実践となるように配慮するとともに、障がい者や高齢者の生活環境にしっかり目を向け、自ら課題を発見することで、誰もが安心・安全な生活ができる地域社会づくりの自覚を持つことを目的とした。
- 生徒が地域を題材として、地域とともに地域の課題解決を図る実践研究に取り組むことにより、本校のキャリア教育目標である「社会で必要となる力」を身に付けさせ、「地域で生き活きと活躍できる人材」を育成することとした。
- 実践研究においては、「余市ワインツーリズム」の企画・運営を通して、地域で発掘した観光スポットの魅力紹介や、実際の観光農園においても障がい者が安心・安全に楽しんでもらえるよう、バリアフリーアイテムの実証実験や地域のバリアフリーマップを作成するなど地域の福祉に係る新たな課題を提示することができた。
- 農業班の実践研究では地域のニーズを踏まえたワイン用ぶどう栽培及び接ぎ木の培養の取組を通して、地域の産業との関わりの中で、地域の課題を題材として教育活動の充実を図ることができた。
- 実践研究を通して、「地域社会で活躍できる人材」、「社会で必要となる力」を育成する上で、その基礎となる地域社会に対する課題意識に係る問いとして挙げた「地域の課題に理解が深まったか」のアンケート結果では、「そう思う、だいたいそう思う」と答えた生徒は令和元年12月、第2回みらい連携会議報告後の83%から令和10月の「余市ワインツーリズム」実施後に91%に上がるなど本調査研究を通して地域理解を深めることができた。

(2) 目標の達成状況

- 本年度の調査研究活動(*1)や地域みらい連携会議(*2)を終えて実施したアンケート結果では本研究の目的の達成状況に記載のとおり、91%の生徒が「地域課題への理解が深まったか」という設問に「とてもそう思う、だいたいそう思う」と回答するとともに、「地元に興味関心が高まったか」という設問には80%が「だいたいそう思う」「とてもそう思う」との回答している(昨年度より+3%)。また、「自分の将来に役立つ取組と思ったか」という設問には77%が「だいたいそう思う」「とてもそう思う」(昨年度より+6%)と回答するなど、継続的な取組により、学びの深化、意識向上に繋がったと考えられる。

* 1 : 今年度の調査研究活動 (2 研究実践内容に記載)

今年度の調査研究は、令和 2 年度の高等学校 OPEN プロジェクト実施計画書 (3 研究の内容等 (方法)) に沿って、おおよそ調査研究を進めた。

実践できなかった研究内容

- ・ 効果的なぶどうの栽培に係る情報提供
- ・ 関係機関による企業セミナー等の実施
- ・ 高齢者の Q O L の向上に係るヒアリング
- ・ ワイン加工・販売・サービス・マーケティング等の立案

* 2 : 第 2 回地域みらい連携会議 (R02.08.31)

第 2 回地域みらい連携会議において、「余市ワインツーリズム」プレツアーについてワールドカフェ方式で委員の先生方と全生徒が意見交換を行うとともに、委員の先生方から多くのアドバイスや助言をいただき、新たな課題を発見するとともに、生徒は地域社会の一員としての意識が高まるきっかけとなった。

(3) 実践研究の規模

- 3 年次生を中心に、各教科の連携を図り、全校規模で実施した。
- 3 年次を中心とした取組であったことから、今後、3 年間を通した計画 (本校の場合、1 年次 : 産社、2・3 年次 : 総合的な探究の時間での実施) の構築を検討している。

(4) 研究成果の普及

- 調査研究実践内容や成果を企業のパンフレットや新聞社等に提供するなど地域に広報することができた。

(5) 実践研究内容

- 4 月から 10 月にかけて実施した調査研究
 - 多言語班 4 月 掲示板、パンフレット作成
 - 6 月 余市町内の多言語化の調査 (余市町役場、余市町観光協会等の関係機関への訪問)
 - 7 ~ 10 月 「余市ワインツーリズム」の見学先の決定に伴い、訪問先の取材、パンフレット作成
- 観光班 4 ~ 6 月 新ビュースポットの開拓、バスツアーガイドに係る学習 ((株) シーピーツアーズ、札幌ブライダル & ホテル観光専門学校からの協力)
- 7 ~ 10 月 ツアーガイド練習、ツアーガイドの原稿作成
- 交通班 4 ~ 6 月 ツアーコース案の作成、現地訪問、時程案作成 (余市町のヴィンヤード、ワイナリーの協力)
- 7 ~ 10 月 「余市ワインツーリズム」の見学先の決定に伴い、詳細な行程案の作成 (訪問地の順番の変更に伴う対応等)

農業班 4～10月 ぶどうの接ぎ木苗の培養、ぶどう栽培、「余市ワインツーリズム」の体験実習の実施案の作成

福祉班 4～7月 バリアフリーに係るアンケート調査、地域のバリアフリートイレ調査

8～10月 果樹園でのバリアフリーアイテム実験、地域のバリアフリートイレマップ作成

○ 「余市ワインツーリズム」プレツアー (R02.08.31)

「余市ワインツーリズム」プレツアーを実施した後、第2回地域みらい連携会議において委員の先生方から講評をいただくとともに、本番の「余市ワインツーリズム」に向けて助言をいただいた。

○ 「余市ワインツーリズム」 (R02.10.10)

10月10日の「余市ワインツーリズム」には参加者が20名、参加者は余市町のヴィンヤードやワイナリーなどを見学するとともに、本校においてぶどうの接ぎ木苗の培養実験を実施。

○ 余市紅志高等学校総合学科研究発表大会 (R02.12.04)

「余市ワインツーリズム」、第3回地域みらい連携会議、全道ミーティングを経て、本校において全校生徒を対象に各班が調査研究の成果発表を行った。(本研究発表会は関係機関にZoom配信を実施)

(6) 地域みらい連携会議

○ テーマに沿った調査研究に必要とされる内容、まとめの方向性について助言を得ることができ、調査、研究の修正を図ることができた。

○ 会議の開催時期については、調査研究の進捗と成果を踏まえて協議ができるよう日程調整が必要である。

5 プロジェクトの達成状況

(1) [評価の観点] 本道の基幹産業を支える人材や、地域を守り支えていく人材の育成について

(評価)

学校(学科)全体として、本道の基幹産業や地域を支える人材の育成につながる取組となった。

(評価した理由)

地域の農業、観光、福祉の課題について関係機関の支援を受けながら調査研究を実施し、地域理解を深めるとともに、自ら課題意識を持って考えようとする生徒が増えていることが、継続的アンケート結果から認められたため。

(2) [評価の観点] 地域の自治体や企業、産業界等の関係機関との協働について

(評価)

地域の自治体や企業、産業界等の関係機関と協働した取組を実施し、成果や課題を共有している。

(評価した理由)

余市町や関係機関、企業からの助言、直接の指導を受けながら活動に取り組むことができたため。(今年度はこれまでの課題解決へ向けての調査研究を「余市町ワインツーリズム」という形で成果発表した。地域の課題について関係機関と共有し調査研究を進めたが、成果について今後、協議、検討が必要である。)

(3) [評価の観点] 生徒の主体性について

(評価)

生徒は、指示の範囲で主体性を持って取り組むことができている。

(理由)

昨年度までの調査研究により各班がおおよそ地域の課題設定を行うことができおり、成果を「余市町ワインツーリズム」の形に落とし込む方向性が示されたことにより、「自分達の立場でできることは何か」を考えながら取り組もうとしていたため。

(4) [評価の観点] 地域課題の解決状況について

(評価)

取組により、地域課題の解決につなげることができた。

(理由)

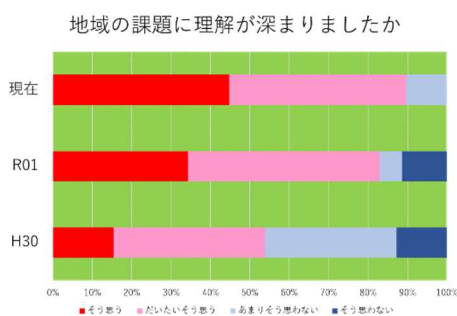
当初計画において、1年目「地域の現状把握と課題設定」、2年目「課題の検証と解決方法検討」、3年目「課題解決の実践と検証」と設定し調査研究に取り組んだ。3年目を迎え「余市町ワインツーリズム」という形態で課題解決に向けた実践とともに検証がなされたため。

6 今後の取組

- 研究主題である「農業の高度化・6次産業化への貢献 ～北のフルーツ王国ワイン特区と連携した町づくり～」にどのように結びつけていくかが調査研究を進める上での課題であった。今年度は、各班の集大成として「余市町ワインツーリズム」を実施する形態で成果を発表することができた。次年度以降、これまでの5つの研究テーマについて課題設定を検討するとともに、継続して深化させることにより、地域の要請に応じた魅力ある学校づくりと、社会で生きて働く力を身に付け、自らの力でたくましく未来を切り拓き、地域の創造に貢献できる人の育成を目指して生徒の育成に取り組んでいく。

7 参考資料

(1) 3年間の評価の推移 (一部抜粋)



初年度末は「地元への興味が高まりましたか」の設問に対し、5割台中盤の生徒しか興味がなかったのに対し、最終年度末では9割に近い生徒が肯定的評価をもって取り組むようになっている。

(2) 「余市ワインツーリズム」 「北海道新聞」 (令和2年10月19日)



生徒が企画した町内の魅力を紹介する札幌発着の日帰りバスツアーでは生徒がガイド役も務め、ツアーに応募した参加者20人は収穫シーズンのワイン用ブドウ畑やワイン醸造所などを回り、味覚の秋を堪能した。